

# こんにちは 在宅介護支援センター です・・・

## 「最近の痴呆性高齢者の介護について」

今月からは、シリーズで最近の痴呆介護の現状と、介護の方法について、ご紹介したいと思います。

近年痴呆性高齢者の増加はめまぐるしく、10年後には、現在の発生状況の1.5倍になると言われています。そこで、これからの介護は、従来の「身体ケア」にくわえて、「痴呆ケア」との両輪で行われる方向になってきています。

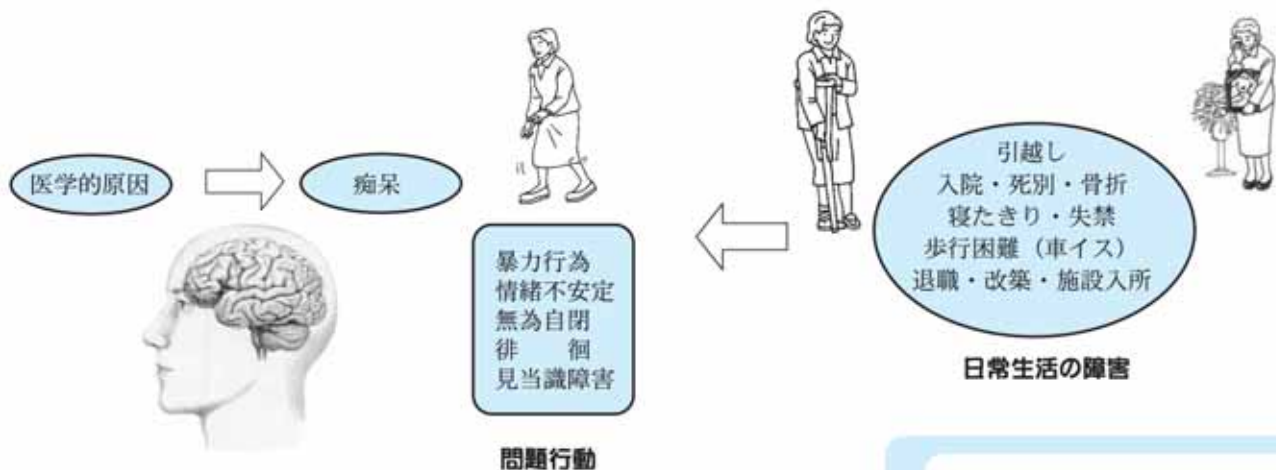
これらの現状から、痴呆性高齢者への社会の理解も大変重要であり、痴呆を予防すると共に、痴呆になっても、安心してその人らしく生活できる社会が求められています。

### ＜痴呆を理解する・・・痴呆ケアが目指すもの（問題行動からのアプローチ）＞

痴呆は、アルツハイマー型痴呆と脳血管性痴呆の大きく2つに分けられます。診断法については、他に譲るとして、最近の介護現場では、脳の変化があるかどうかや、痴呆の程度を示す点数が何点かということより、本人の生活のあり方を見ることのほうが、大切だといわれています。介護が目指すものは、痴呆そのものを治すことではなく、問題行動がなくなって、高齢者が落ち着き、日々の生活が安定することです。そのためには、問題行動がなぜ起こるのか原因を探り、対応を考える必要があります。

#### \*痴呆の原因\*・・・痴呆はなぜ起こる？

痴呆の原因には、アルツハイマーや、ピック病などの医学的原因のほか、引越しや、病気による入院、配偶者の死去など日常生活の障害が引き金になることが多く見られます。後者の日常生活の障害は、老いてゆく自分を認められず、自然な老化現象や、障害による機能低下、人間関係の変化などをきっかけとして生じる「自分との関係障害」と捉えることができます。



痴呆性高齢者本人が、本人らしさを失わず、安定していられるためには、周囲の人の理解と、適切な支援が必要です。どんなときにどのような問題行動が現れるか、どのように対応すればよいかをつかみ、対応することが必要です。一般的に、初期の痴呆性高齢者は、身近な家族より、近所の人や、友人と過ごすときには安定していることが多いようです。また、痴呆のある高齢者同士も、意外と落ち着くようです。これは「お互いが共感できる」ことで落ち着くのです。家族は、とかく本人への期待感が強すぎて、一方的になっていることが多いため、本人は、拒否的になったり、防衛的になったりして、問題行動を起こすものと考えられます。きばらない、自然な対応が、本人の安定する環境を作るのでしょうか。痴呆性高齢者を抱えるご家族の皆さんも、ご本人も、懸命に介護し、暮らしています。

次回は、「痴呆性高齢者のケア7原則について」を中心に具体的な介護のこつについて考えます。

#### \*\*\* コラム \*\*\*

「ぼけても心は生きている」  
「人間、ぼけたらおしまい」とか「ぼけたら何も分らない」とか「ぼけてまで生きたくない」などと思っていませんか？(中略)ぼけた人でも何も分らないわけではなく、本人は苦しんでいるし、その人の人生で、育ててきた、普通の心を持っているのだということが、徐々に分かってきました。  
(社)痴呆老人をかかえる家族の会編  
・・・「痴呆の人の思い、家族の思い」中央法規発行より抜粋